

一般質問 「ゼロカーボンシティへの取組について」

【質問者:議員8

議員】

ゼロカーボンシティに向けた取組として、3点、環境部長にお尋ねします。

1点目は、ごみ袋の有料化についての検討です。岐阜市は、^{たず}雑がみ回収を実施、今年4月からはプラスチック製容器包装の分別収集をスタートするなど、ごみ減量・資源化施策を実施しています。岐阜県内の市町村では約9割、全国的にも6割近くの市町村が導入しているごみ処理有料化は、家庭ごみを減らす意識が促進されることで、二酸化炭素排出量の削減につながり、地球温暖化防止対策では避けては通れない課題だと認識しています。また、ごみが減ることで、近く計画されている処理工場の建て替えに伴う経費削減や市の財政負担の軽減など、市民全体のメリットもあると考えます。

コロナ禍における経済不況の下で市民の負担を直接増やすのは慎重になすべきだと思いますが、こうした状況を踏まえ、ごみ処理有料化の導入についての現状のお考えをお聞きします。

2点目は、生ごみを堆肥に変えることでごみ減量となるコンポストの取組についてお聞きします。

1つの段ボール箱で約60キロ、1日当たり300グラムから500

グラム程度の生ごみを大体3か月から4か月入れ続けるということがで
きます。岐阜市は、毎年、コンポスト講習会を無料で開催し、新規で利
用される世帯に段ボールや基材を無償で提供し、翌年以降も継続される
世帯には、一定額の補助をしています。現在、新規で約600世帯、継続
で約400世帯、合わせて合計約1,000世帯ほどがダンボールコン
ポストを毎年実施されるとお聞きしています。

しかし、家庭菜園をやっていないため、堆肥の使い道がないなどの課
題があります。地域で堆肥を集めて利用する取組も始められたと聞いて
いますが、まだまだ広く普及できていません。

【質問者:議員9 議員】

さらに多くの方に普及するために、コンパクトな布製のバッグ型コン
ポストの購入の補助制度の新設、ダンボールコンポストカバーの色の変
更、デザインの追加について検討いただけないでしょうか。

コンポストを問題意識の高い人だけではなく、たくさんの人々に普及す
るためにには時間がかかりますが、環境問題を全体的に若い世代にも普及
するためには、おしゃれとか楽しいという要素が必要だと考えます。

ローカルフードサイクリングのバッグ型は、周りでも、これならでき
るという声を聞きますし、導入している方も増えています。使いやすさ

やごみの臭いや虫の点でも非常によいと感じられているそうです。

また、ダンボールコンポストのカバーの色やデザインの変更をすることで、興味を引けると思います。こちらも無料配布と有料デザインの選択ができるような仕組みをお考えいただきたいです。有料デザインには障がい者アートを採用していただけだと、彼らの活躍の場にもなると考えます。

最後に、公共施設の電力調達方針についてお聞きします。

ゼロカーボンには、太陽光発電など再生可能エネルギー調達割合を増やす、または再エネ発電をする取組が必要になります。

岐阜市の公共施設の再生可能エネルギーによる電力調達方針については、どのような方針でしょうか。再エネの中でも森林を切り開いた大規模なメガソーラーやダム、あるいは海外から調達した資源を使うバイオマス発電だけはできるだけ避けていただきたいですが、岐阜市の再生可能エネルギー調達をこれからも増やしていただきたいです。

また、こうした情報を市のホームページに開示して、市民の意識を高めるように取り組んでいただけないでしょうか。

以上、3点を環境部長にお尋ねします。

答弁 環境部長

【答弁者: 環境部長1】

ゼロカーボンシティへの取組に関する3点のご質問にお答えいたしました。

初めに、1点目の、ごみ処理の有料化についてです。

本市では、循環型社会の実現を図るため、平成23年11月にごみ減量・資源化指針2011を策定し、ごみ焼却量を、ピーク時から3分の1以上減らすことを目標に、「ごみ1／3減量大作戦」市民運動に取り組んでいます。その後、平成29年3月に指針を改定し、さらに、5年が過ぎた今年、民間の資源回収ステーションの増加といった廃棄物を取り巻く環境の変化や、新型コロナウイルス感染症の影響に伴うごみの内容や排出量の変化、今年4月から開始したプラスチック製容器包装の分別収集など新たな施策を考慮し、今年の7月に、あらためて指針を改定しました。

ごみ処理の有料化につきましては、この指針の中で、ごみの減量を図る作戦の1つとして位置づけており、これまでのごみを減らす取組の効果などを踏まえた上で、有料化に向けた検討を開始するとしています。こうしたことから、まずは、これまでのごみを減らす取組の効果や将来のごみの排出量の見込みなどを細かく整理した上で、今後の在り方を

検討していきたいと考えています。

【答弁者：環境部長2】

次に、2点目の、ダンボールコンポストの普及についてです。

本市が実施した家庭系ごみの組成調査によると、家庭から排出される普通ごみのうち、生ごみは約4分の1を占めており、ごみの減量を進める上で生ごみを減らす取組は大変重要です。そして、本市では、生ごみを減らす施策の1つとして、ダンボールコンポストの普及事業に取り組んでいます。これは、生ごみを、植物を乾燥させた基材に混ぜることで、その中で微生物が生ごみを分解し、堆肥になるもので、段ボール1箱で一般家庭のおおむね4か月分の生ごみを処理することが可能です。そして、本市では、ダンボールコンポストの普及のため、その実践方法を紹介する講座のほか、動画の視聴による講座も行っています。

そして、これらの講座を受講された方々には、きっかけづくりとして、ダンボールコンポストを無償提供するとともに、継続的に取り組む方々を増やすため、ダンボールコンポストの購入に対する補助制度も設けています。

しかし、ダンボールコンポストを一層普及するためには、議員がご案内されたコンポストを生活に溶け込みやすいものにすることも大切であ

り、今後、その種類やデザイン、コストなどについて調査研究していく
たいと考えています。

【答弁者：環境部長3】

最後に、3点目の、再生可能エネルギーによる電力調達についてで
す。

本市では、平成28年度に本市の恵まれた太陽光や豊富な地下水など
を活用した再生可能エネルギーを地産地消し、脱炭素化都市を目指すこ
とを目的として、スマートエネルギー岐阜推進プランを策定しました。
再生可能エネルギーは、太陽光、風力、地熱、中小水力といった温室効果
ガスを排出せず、また、国内で生産できることから、脱炭素化社会を実
現する上で重要な資源です。そして、このような再生可能エネルギーを
電力として利用するためには、施設に直接、再生可能エネルギーの設備
を設ける自家調達と再生可能エネルギーに由来する電力を購入する方
法があります。しかし、自家調達には、建物上の制約や設備の導入コ
ストが、一方、電力購入には、エネルギーの調達先の不足や料金が割高
であるといった課題があります。

こうした中、昨年6月に改正された地球温暖化対策推進法では、地域
の脱炭素化の推進のため、再生可能エネルギーの活用が大きな方針とし

かか
て掲げられ、今後、社会全体で再生可能エネルギーを安定的に活用でき
るよう、さらなる技術開発や規制の見直し、また、導入コストの低減な
どが進んでいくものと考えております。

こうしたことから、市有施設における再生可能エネルギーの電力調
達につきましては、このような社会の動向を注視しながら、施設の規模や
状況に応じて、関係部局と検討していきたいと考えています。